

平成29年度 自己評価計画書

石川県立大聖寺高等学校

1 3年間を見通した進路指導体制の充実を図り、低学年からのキャリア教育を通して高い志を持たせ、生徒一人一人の進路実現を図る。

具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
① 放課後補習を効果的に行い、大学入試に対応できる基礎学力定着と応用力養成を図る。	進路指導課 各教科 3年学年団	総体総文終了後、進学希望者全員が参加する形式で補習授業を実施している。できる限り習熟型の講座編成を行うことで、個々の生徒の学力向上を目指している。	【満足度指標(生徒)】 放課後補習は受験学習に効果的に作用している。	効果的に作用していると評価する生徒の割合が A 90%以上である。 B 85%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度は「役立っている」「どちらかといえば役立っている」の割合が 87.9% (第2回学習実態調査)
② 「総合的な学習の時間」における大学・学部・学科研究等を通して、上級学校や職業について学び、高い志を持たせるように努め、生徒一人一人の進路実現に資する。	進路指導課 学年団 教務課	キャリア教育を推進することで、進路意識の高揚を図り、学習意欲向上につなげている。ホーム副担任を主担当としながら、担任の関与も増やすことで、より大きな効果が生まれるように努めている。	【満足度指標(生徒)】 副担任と担任が連携し、将来の進路目標を設定するための説明や指導が十分になされている。	進路を考える上で「総合的な学習の時間」が参考になったと思う生徒の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度は「参考になっている」「少し参考になっている」の割合が 1年84.0% 2年69.7% 平均76.9% (第2回学習実態調査)
③ 個人面談を通して生徒理解に努め、生徒個々に応じた進路指導を実践し、3年間を見通した進路指導体制の充実を図る。	進路指導課 学年団	3年間を見通した進路指導体制の充実を図るべく、生徒個々の志望や家庭状況等も勘案しながら、ホームルームや総合学習時の進路学習や進路志望調査、模試結果等を参考資料として、昼食時間や放課後等に個人面談を実施している。	【満足度指標(生徒)】 担任との面談が自分の進路目標設定や進路実現に有効であると考えている。	進路を考える上で担任との面談が参考になったと思う生徒の割合が A 95%以上である。 B 90%以上である。 C 85%以上である。 D 85%未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度は「担任との面談が役立っている」「もっと面談したい」の割合が 1年94.3% 2年87.7% 3年95.2% 平均90.6%
④ 大学合格者数の数値目標を達成する	進路指導課 3年学年団 教務課 各教科	国公立大学の合格者数を2年ぶりに50台に戻すことはできたが、国立大学の合格校は5校のみであった。金沢大学の合格者数は3年ぶりに二桁に回復させることができた。	【成果指標】 国公立大学合格者数が本校の進路指導の評価の一つとなっている。	国公立大学合格者数が A 60人以上である。 B 50人以上である。 C 40人以上である。 D 40人未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	平成30年3月末に結果が判明する。 昨年度は国公立大学に50名が合格した。
			【成果指標】 地元の金沢大学合格者数が本校の進路指導の評価の一つとなっている。	金沢大学合格者数が A 15人以上である。 B 10人以上である。 C 5人以上である。 D 5人未満である。		

2 授業と家庭学習とにより基礎・基本となる学習内容の確実な定着を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための研究と実践を進める。

① 中高交流研究授業、探究スキル育成プロジェクト、校内公開授業など諸研究授業の実践・参観および研究協議会を通して、教科指導法等の技能を高め、生徒の思考力の向上に努める。	教務課 各教科	昨年度は80%程度の達成率で、ほぼ全ての授業で生徒が発展的な内容に触れ、より多く考える機会が得られたと答えたが、生徒が主体的にさらに深く学ぼうとしているかを問う、具体的なアンケート項目に改善したい。	【満足度指標(生徒)】 授業の中で、その内容をもとに、さらに深く自ら考える機会をもち、学習に対する大きな刺激を与えてくれる。	授業において、自ら深く考える機会があり、学習に対する大きな刺激をが得られたという生徒の割合が A 75%以上である。 B 65%以上である。 C 55%以上である。 D 55%未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	今年度新規
② 家庭学習時間調査を通じて、生徒の学習状況を把握するとともに、学年団と連携して各種課題提出の徹底を図ることにより、家庭学習習慣の確立に努める。	教務課 各学年団 各教科	学年平均は、3学年とも目標の学習時間を達成しているが、達成している生徒の割合が低い。生徒一人ひとりへの声かけを欠かさず、重点的に取り組みたい。	【成果指標】 1日平均の家庭学習時間を1年生120分、2年生120分、3年生220分とする。	目標時間を達成している生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	平成28年度 1年 53% 2年 62% 3年 51% 平均 55%
		全体に学期中の学習時間が少なく、低い次元で安定していると言える。休業中でも意欲を喚起でき、継続できる取り組みが必要である。	【努力指標】 夏季休業中(7・8月)の学習時間を1学期(4～6月)と同程度(90%以上)に維持する。	1学期と同程度の生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上である。 C 50%以上である。 D 50%未満である。		
③ 土曜補習(Sゼミ)を効果的に実施し、学習における基礎基本の定着を図る。	教務課 各教科	土曜補習(Sゼミ)については、「やらされている感」をもつ生徒が多い。生徒の多様な進路目標を念頭に置いて、時間割等を検討する必要がある。	【満足度指標(生徒)】 土曜補習(Sゼミ)は学習意欲の喚起、基礎学力の養成に効果があると考えている。	効果があると考えている生徒の割合が A 80%以上である。 B 60%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	C, Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	平成28年度 1年 68% 2年 74% 平均 71%

3 文武両道を目指して部活動や生徒会活動の活性化を図るとともに、地域行事やボランティア活動への積極的参加に努め、明るく活力ある学校づくりを推進する。

具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
① 部活動の内容を充実させ、活性化を図り、文武両道を目指す。	生徒会指導課	1年生は全員部活動に加入しているが、活動に満足している生徒は70%にとどまっている。時間が経つに従って低下傾向にある。より満足度を高める工夫が必要である。	【成果指標】 1年生の部活動に対する満足度を高める。	満足している1年生の割合が A 80%以上である。 B 60%以上である。 C 40%以上である。 D 40%未満である。	C、Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	平成28年度 「充実感を感じている。」 70.2% 第2回学習実態等調査 (11月)
② 運動部の競技力向上を図る。	生徒会指導課	平成26年度総体総合順位は22位。 平成27年度総体総合順位は28位。 平成28年度総体総合順位は33位。	【成果指標】 県高校総体で総合順位25位以内をめざす。	県高校総体順位が A 25位以上である。 B 26位～30位である。 C 31位～35位である。 D 36位以下である。	C、Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	平成28年度 総合33位 男子42位 女子22位 平成27年度総合28位 平成26年度総合22位
③ 部活動が地域や中学校との連携を図り、地域に愛される学校づくりを目指す。	生徒会指導課	多くの部活動が地域のボランティア活動や中学校との合同練習を行っているが、地域や中学校に活動が十分に認知されていないのが現状である。	【成果指標】 全30の部活動が年1回以上、地域や中学校と連携し、活動を行う。	地域や中学校と連携し、活動を行った部活動が A 25以上である。 B 20以上である。 C 15以上である。 D 10未満である。	C、Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	平成28年度 24の部活動が地域または中学校と連携して活動した。
④ 郷土独自の歴史や文化を知り、郷土に対する親しみや誇りを持つよう、地域探訪を計画・実施する。	総務課 1年学年団	郷土の伝統文化に触れる機会が少ないために、それらに対する興味・関心が乏しい。	【満足度指標(生徒)】 設定されたコースを興味・関心をもって巡ることができる。	参加してよかったと感じる生徒が A 90%以上である。 B 75%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C、Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度の地域探訪は 「良かった」:70% 「ふつう」 :30% 生徒のアンケート結果
			【満足度指標(生徒)】 郷土の歴史・文化について理解が深まり、郷土に愛着を感じる。	郷土に対する理解がかなり深まったとする生徒が A 40%以上である。 B 30%以上である。 C 20%以上である。 D 20%未満である。	C、Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	昨年度は 理解が「かなり深まった」:24% 生徒のアンケート結果
⑤ 山林ボランティアや地域清掃活動など、地域に貢献する取り組みに積極的に参加する。	総務課 学年団	学校全体としては、さまざまな取り組みを行っているが、主体的にボランティアに取り組もうとする生徒の割合は多いとは言えない。	【成果指標】 さまざまな地域ボランティア活動に積極的に参加する。	ボランティア活動に参加した生徒の延べ人数が A 450人以上である。 B 350人以上である。 C 300人以上である。 D 300人未満である。	C、Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	6月9日の地域清掃ボランティアに2年学年が参加。山林ボランティア、7月(56名)10月(59名)参加。

4 挨拶の励行や交通ルールの遵守などの指導を丁寧に行い、基本的生活習慣の確立と規範意識・マナー意識の高揚を図る。

具体的取り組み	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
① 登校指導や挨拶運動などを通して、挨拶の励行及び正しい制服の着こなしと規範意識、マナー意識の高揚を図る。	生活指導課 学年団	交通マナーやJR乗車マナー、服装容儀、挨拶において年々向上していると感じられるが、さらなる指導の必要性が感じられる。	【満足度指標(保護者)】 規範意識、マナー意識が向上したと感じる。	向上したと感じている保護者が A 90%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C、Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	保護者アンケート結果 「規範意識、マナー意識が向上したと感じる」 69%
② 遅刻の管理をし、基本的生活習慣の確立をさらに推し進め、学習環境を充実させる。	生活指導課 学年団	昨年度登校時間を8時15分とし、朝学習に遅れないよう遅刻指導を行った。アバウトな5分間が無くなり、遅刻数は増えたが朝学習に遅れる生徒は減少した。引き続き遅刻指導を徹底し基本的生活習慣を確立した。	【努力指標】 1日の平均遅刻者数が1人以下になることを目指す。	全体の1日平均の遅刻者数が A 0.5人以下である。 B 1人以下である。 C 3人以下である。 D 3人を超える。	C、Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	平成23年度 2.8人 平成24年度 3.3人 平成25年度 1.3人 平成26年度 0.7人 平成27年度 0.5人 平成28年度 1.1人
③ いじめのない学校づくりをめざし、全職員の共通理解のもとで、いじめは絶対にダメであるという指導を徹底して行う。	生活指導課 学年団	日常の指導やいじめ防止のための講演会などの取り組みをすすめることと、アンケートや生徒との面談などを通じて情報収集と指導を図っている。	【努力指標】 課題のある生徒への対処で、学年団や教育相談、生徒指導などが十分に連携している。	連携しているとする教員の割合が A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C、Dが出た場合、主管課で原因を分析し、実施方法を再検討する。	今年度新規